

神戸の地層解説

神戸の自然シリーズ
神戸の大地のなりたちと自然の歴史

PDF

大阪層群（おおさかそうぐん） 上部・中部・下部亜層群（あそうぐん）

ビデオは、写真をクリックすると小さな動画、「ビデオ解説1」の文字をクリックすると大きな動画になります。

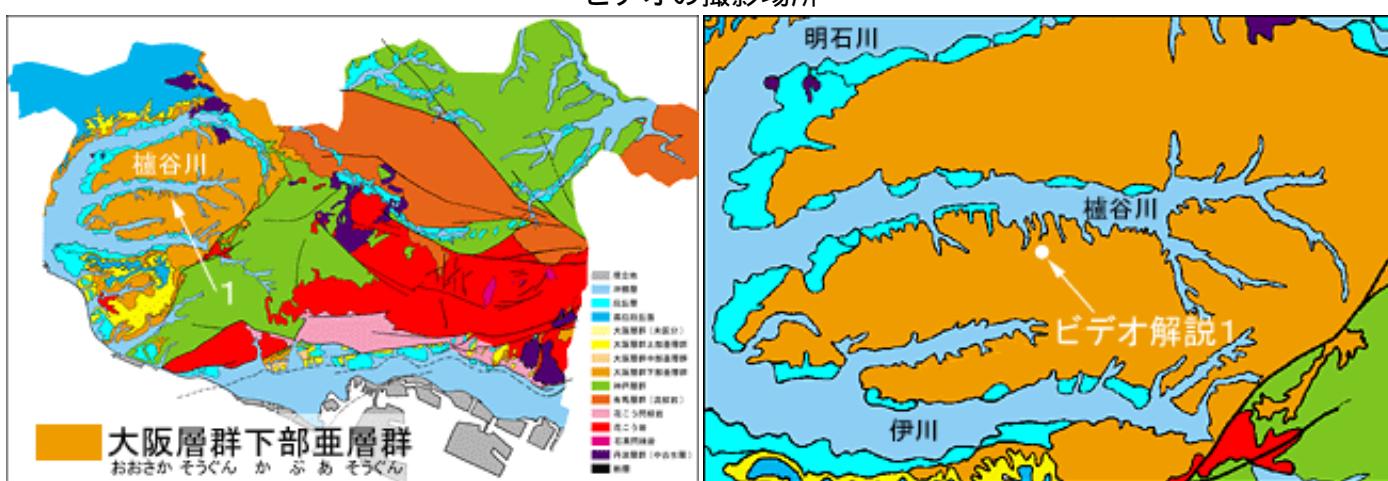


< [ビデオ解説1](#) > 5'23", MPEG1

大阪層群について、神戸市西区の西神南の開発現場で、地層先生が解説しています。

小：34.0MB, 768Kbps, 大：87.0MB, 2048Kbps.

ビデオの撮影場所



見られるところ

六甲山地の南側のふもとの丘陵地、垂水区、西区、明石市などの丘陵地、そして大阪湾の海底の深いところなどです。

年代

新生代第三紀鮮新世～第四紀更新世（しんせいだい だいさんき せんしんせい～だいよんき こうしんせい：300万年前～15万年前）。

説明（地層の特徴）

大阪平野から播磨平野の丘陵に広がっている300万年前～15万年前の地層です。レキ・砂・粘土・火山灰の地層からできています。まだ新しい地層なのでかたまつてない軟らかい地層です。粘土は、海や湖の底にたまたまものです。レキや砂は川原や山のふもと、海岸などにたまたまものです。火山灰の地層は地層のつながりや関係をしらべる役割をします。

粘土の地層には、化石がふくまれていることがあります。アカシ象（アケボノゾウ）の化石は下部の明石累層（あかしるいそう）という地層から見つかりました。明美累層（めいみるいそう）とよばれる中部の地層からは貝化石が見つかっています。

明石累層には、青い色の湖にたまたまたった粘土層が何枚もあり、大きな湖があったことがわかっています。明美累層には、黒い色の海にたまたまたった粘土層が何枚もあって、何回も海が入ってきたり、しりぞいたりしたことがわかっています。

地層の特徴から、下部・中部・上部にわけられることがあります。

化石

アカシ象（アケボノゾウ）、貝、木の葉や実などの化石が見つかっています。



西神南の開発で見られた大阪層群のろ頭
粘土、砂、れきがくり返したい積している。



青白い色をした大阪層群明石累層の粘土層
古神戸湖と名づけられた湖の底にたい積してできたもので、
アケボノゾウ（アカシ象）が見つかった地層と同じ。



ここをクリックすると、青い粘土層の解説を聞くことができます。



アケボノゾウの発掘記念碑
西神南駅前公園

200万年前、ここにゾウがいた

200万年前、このあたりには大きな湖が広がっていました。ヒリの草原に、たくさんの象がむれをなして生活していました。現在よりもあたたかな気候で、まわりにはメタセコイアやフウなる森林がありました。うな大昔の自然のようすは地層をしらべるとわかります。所は、200万年前のアケボノゾウ（アカシゾウ）の全身の化石が見上ごろです。

10月、地層を調査していた中学校の先生たちのグループがここに粘土の地層の中に小さな骨の一部を見つめました。その後、5人の手によって多数の化石が発掘されました。それともどに

記念碑の碑文（ひぶん）の一部
「200万年前、ここにゾウがいた...で始まっている。」

もっとくわしく調べてみよう

1. [大阪層群のくわしい解説（神戸の地層を読む2）](#)
2. [大阪層群の高塚山層についての解説（神戸の地層を読む2）](#)
3. [青粘土層についてのお話し（神戸の地層を読む2）](#)
4. [大阪層群から見つかったアカシ象の化石（アカシ象発掘記）](#)

| [もとのページにもどる](#) |

| [神戸の大地のなりたちと自然の歴史 メニューへ](#) |